

二、三海藻の命名法上の問題点 (4)

吉田 忠生

北海道大学理学部植物学教室 060 北海道札幌市北区北10条西8丁目

Nomenclatural Notes on Some Japanese Marine Algae (4)

Tadao YOSHIDA

Department of Botany, Faculty of Science, Hokkaido University,
Kita 10-jo, Nishi 8-chome, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060 JAPAN

(Received on October 4, 1991)

The generic name *Okamurina* Zinova 1972 is concluded as an illegal name, because of misapplication of the type species. A validly published name, *Yamadaphycus* Mikami 1973 must be used for this taxon. Currently used name *Gelidium amansii* from Japanese coast was proved to be misidentification, and *G. elegans* Kuetzing is available for Japanese plant. The names *Gelidium subfastigiatum* Okamura and *G. vagum* Okamura were validly published in a paper of Inagaki 1933 before the publication of Okamura 1934. *Nemastoma foliacea* Levring is proved to be a later homonym of *N. foliacea* Yamada, and a new name *N. levringii* Yoshida is proposed. Discussion was made to transfer *Neomonospora sericata* Segawa to *Monosporus*. *Fucus serratifolius* Thunberg was proved to be published later than *F. serratifolius* C. Agardh.

(Continued from J. Jpn. Bot. 55: 310-314, 1980)

13. コノハノリモドキ *Yamadaphycus carnosus* Mikami

Yamadaphycus Mikami 1973 と *Okamurina* Zinova 1972 との関係について、前報 (吉田1980) では *Okamurina* に先取権があるとして *Okamurina carnosus* の組合せを提唱した。その後、Wynne (1982) の指摘もあって、*Okamurina* の正当性について再考した。

Zinova (1972) は *Okamurina* 属を記載したときタイプ種として *O. pacifica* (Yamada) Zinova を指定した。この名前は *Laingia pacifica* Yamada (= *Pseudophycodrys pacifica* Yamada 1930) に基づいている。Yamada の種名はすでに *Congre-*

gatocarpus のタイプ種 *C. pacificus* (Yamada) Mikami 1971 の basionym として用いられていて、この時点で *Okamurina* Zinova はおなじタイプ種を持つことになり superfluous であり、国際植物命名規約 (Greuter et al. 1988) 第63条1項によって非合法として棄却すべきであるということになる。その後、Zinova (1976) は属の定義を変更し、タイプ種の同定に誤りがあったとして *Okamurina rigida* Zinova の名前を与え、タイプ種の変更を提案した。*O. rigida* は *O. pacifica* sensu Zinova, non *Laingia pacifica* Yamada に与えた新名であるがラテン語記載を欠いている。この手続きも命名規約からは認めがたいものとい

わなければならない。結局 *Okamura* 属の名前を棄却すれば、*O. carnosus* の組合せも無意味となり、コノハノリモドキには *Yamadaphycus carnosus* Mikami の名前が正当で合法的なものとなる。

Zinova (1972) indicated *O. pacifica* (= *Pseudophycodrys pacifica* Yamada) as the type species of her new genus *Okamura*, but this genus must be regarded as superfluous under the Art. 63.1 of ICBN, because of the presence of *Congregatocarpus* Mikami 1971, having the same type species. Her later proposition to change the name of the type species to *O. rigida*, a new name instead of *O. pacifica*, cannot validate the generic name. *Yamadaphycus carnosus* Mikami is, therefore, a valid and legitimate name.

14. マクサの学名について

日本産のテングサ類についての記録は Kaempfer (1712) にまで遡るであろうが、これは Linnaeus 以前のことであるから、Linnaean system の学名が与えられたのは Harvey (1857) の報告が初めてであろう。彼は Perry 艦隊に乗船して日本にきた James Morrow の採集品に *Gelidium cartilagineum* Greville (下田) および *G. corneum* Lamouroux (東京湾, 下田) の名前を与えた。また Captain Rodgers 北太平洋探検隊の Charles Wright が伊豆下田で採集した標本により Harvey (1859) は *Suhria japonica* Harvey を記載した。

Martens (1866) は Harvey が報告した *G. cartilagineum* を *G. amansii* Lamouroux であると訂正し、その他に *G. corneum* Hudson, *G. rigens* Greville, *G. pristoides* Turner の3種を横浜, 下田, 長崎に産するとした。アジア産の種に *G. amansii* の名前を適用したのは彼が最初であろう。

Kuetzing (1868) は Martens の日本からの採集品に基づいて *G. amansii* を図解 (Fig. 1 左) するとともに *G. elegans* Kuetzing を記載し、図を与えた (Fig. 1 右)。Kuetzing の研究した標本はライデンの Rijksherbarium にあり、Segi

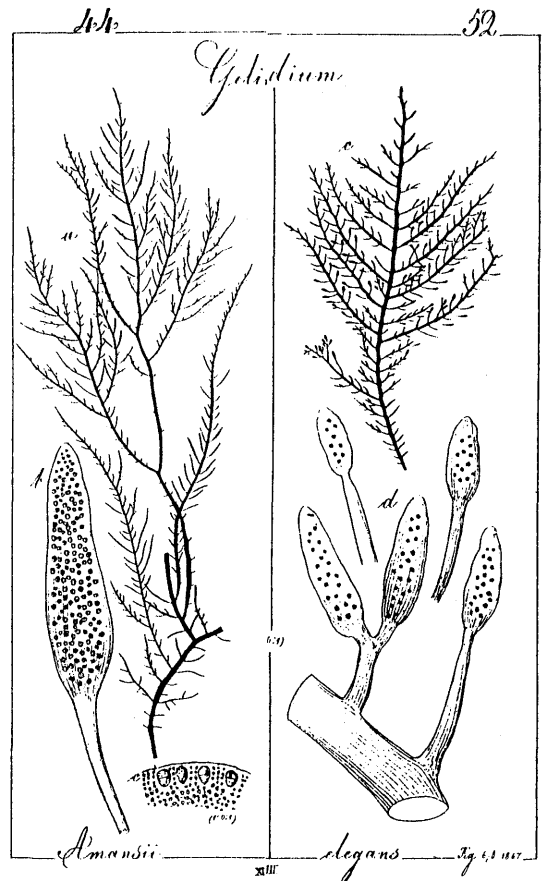


Fig. 1. *Gelidium amansii* and *G. elegans*, after Kützing 1868.

(1963) が pl. 2, fig. A および pl. 23, fig. D として写真を示している。Suringar (1870) は Siebold と Textor の採集品に基づいて *G. corneum* を日本から報告した。

日本の研究者としては岡村 (1902) がテングサ (マクサ) に *Gelidium cartilagineum* の名前を採用し、*G. amansii* をその異名としている。遠藤 (1911) はテングサの学名に *G. amansii* を用いた。岡村も1913年の図譜3巻以後は一貫して *G. amansii* の名前を採用し、これが定着している。稲垣 (1933) は北海道忍路産の紅藻としてマクサ *G. elegans* およびマクサ *G. amansii* を報告した。

Segi (1959) はフランス Caen 大学にある Lamouroux herbarium 所蔵の *Fucus amansii* の

タイプ標本を観察し記載しているけれども、日本産の植物との異同についてはなにも触れていない。

最近になって、Santelices (1988) は *Fucus amansii* Lamouroux のタイプ標本と東アジアで *G. amansii* と呼ばれている植物とが形態的に差があり、これまでの同定に疑問を表明した。Norris (1990) は南アフリカと日本のテングサ属植物の標本を検討し、いずれも Lamouroux がマダガスカル島(?) の標本に基づいて記載した *G. amansii* とは分枝の様式に差があり異なる種類であるとした。そして *G. elegans* の名前が日本産の種に用いられるであろうとした。*G. amansii* はインド洋西部以外では東アジアの日本周辺のみから報告され、最近の Hatta and Prud'homme van Reine (1991) の調査によってもインドネシアなどその間の地域からの記録はない。*G. cartilagineum* の名は現在使用されておらず、このような状況で、日本産のマクサに *G. amansii* 以外の名前を適用するとすれば、Kuetzing (1868) の記載した *G. elegans* を用いるのが正しいであろう。彼はこの名前を Martens が横浜“Yokuhama”で採集した標本(L. 941.46.342)に基づいて与えており、現在われわれが理解しているものと違いはない。このような理由で吉田ほか(1990)の日本産海藻目録でもこの名前を採用した。

As for a taxon currently known as *Gelidium amansii* from Japanese coasts, Santelices (1988) and Norris (1990) expressed their strong doubt about the identification. Until further information is available, it is reasonable to use the name *Gelidium elegans* Kuetzing, which was described on the materials collected from Yokohama (as “Yokuhama”), Pacific coast of central Honshu, by Martens, as has been adopted in the revised list of marine algae compiled by Yoshida et al. (1990).

15. ナンブグサとヨレクサの発表年について

ナンブグサ *Gelidium subfastigiatum* Okamura とヨレクサ *G. vagum* Okamura はいずれも1934年3月に水産講習所研究報告に和文と英文の両方

で記載報告されている。しかしこれより先、1933年11月発行の北大海藻研究所報告第2号において稲垣はナンブグサ *G. subfastigiatum* Okam. mscr. とヨレブト *G. vagum* Okam. mscr. を検索表と和文の記載と共に発表している。岡村および山田からの教示でこれらの種類の記述が準備されていることを知り、稲垣が自分の論文に収録したものが岡村の論文より先に印刷されたものであろう。ラテン語の記載文がないのは同様で、国際植物命名規約36条2項によって正当な発表とされるので、稲垣の論文のなかで最初に発表されたとして扱わなければならない。

Following two names of *Gelidium* were validly published in a paper of Inagaki (November 1933) which was published several months earlier than that of Okamura (March 1934).

Gelidium subfastigiatum Okamura in Inagaki, Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Univ. 2: 20. 1933.

Gelidium vagum Okamura in Inagaki, Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Univ. 2: 21. 1933.

16. *Nemastoma foliacea* Yamada と *Nemastoma foliacea* Levring

この二つの名前はいずれも1941年に発表された。Yamada のものは海藻研究所欧文報告で、2巻2号は1941年2月発行と記されている。Levring の論文は同じ1941年ではあるが、最初のページにある Skottsberg の序文の日付は1941年5月であり、また670ページの図版説明の末尾には Printed 14/12 1941とあるので、明らかに Yamada の発表よりも遅い。Levring の名前を later homonym としなければならない。そこで新しい名前を提案する。

The name *Nemastoma foliacea* Levring was published not earlier than May 1941 and later than *Nemastoma foliacea* Yamada published in February 1941. The former name must be treated as a later homonym of the latter. Therefore, a new name is proposed.

Nemastoma levringii Yoshida, nom. nov.

= *Nemastoma foliacea* Levring, Nat. Hist. Juan Fernandez and Easter Isl. 2: 637. f. 13. pl. 52, f. 1. 1941, non Yamada.

17. ハイキヌゲの学名について

この種類は *Neomonospora sericata* Segawa (1941) として発表された。属名の *Neomonospora* Setchell et Gardner 1937は Solier の *Monosporus* がふつう *Monospora* と綴られていたことから、これは *Monospora* Hochstetter 1841 の later homonym であるとして再命名されたものである。一方、*Corynospora* J. Agardh 1851は lectotypification により *C. pedicellata* (= *Conferva pedicellata* Smith) をタイプ種とすることになり、*Neomonospora* よりも早く発表されたものであるから、同じ属に対する正しい名前とされた。このため、瀬川のハイキヌゲについて *Corynospora sericata* (Segawa) Yoshida の組合せを提案した (吉田1976)。しかし、Baldock (1976) は Solier の名前は *Monosporus* の綴りで発表されたものであり、*Monospora* Hochstetter とは別の名前であると主張し、Index Nominum Genericorum (Farr et al. 1979) もそれを採用している。その結果ハイキヌゲについては *Corynospora* ではなく *Monosporus* を適用し次のようにしなければならない。

Neomonospora sericata Segawa must be transferred to the genus *Monosporus* as follows, because the genus name *Neomonospora* Setchell et Gardner is treated as a synonym of *Monosporus* Solier.

Monosporus sericatus (Segawa) Yoshida, comb. nov.

Basionym: *Neomonospora sericata* Segawa, Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Univ. 2: 267. f. 12. pl. 55, f. 2. 1941.

Synonym: *Corynospora sericata* (Segawa) Yoshida 1976: 143.

18. *Fucus serratifolius* Thunberg の発表時期について

Yoshida (1983) は日本産のホンダワラ属 *Bactrophycus* 亜属を扱った際に、*Fucus serratifolius* C. Agardh 1815と *Fucus serratifolius* Thunberg 1815の二つの名前の関係について、どちらが早く発表されたのか不明確なまま C. Agardh の名前を正当なものとして採用した。C. Agardh の *Algarum decas quarta* には xv Junii MDCCCXV という日付が最初のページにあり、これが発行の日付とされる。Thunberg の名前は *Nova Acta Regiae Societatis Upsaliensis* Vol. 7に発表されたもので、1815年とされているだけで正確な日付は明らかではない。その後、信州大学豊国秀夫教授のご好意によってより確実な出版記録を知ることができた。豊国教授に入手して戴いたウプサラの王立学術出版局 Konglige Akademiska Boktryckeriet i Upsala によると上記刊行物の Vol. 7は1816年1月1日から6月30日までのあいだに発行されたことが明らかである。この結果、問題となった二つの名前のうち、C. Agardh の名前が正当で、Thunberg のものは later homonym である事が立証された。*Fucus serratifolius* C. Agardh を基名として *Sargassum serratifolium* (C. Agardh) C. Agardh の組合せがあり、ウスバノコギリモクの学名である。

According to the record of Konglige Akademiska Boktryckeriet i Upsala, the name *Fucus serratifolius* Thunberg was proved to be published in the first half of the year 1816 instead of 1815. This name must be treated as a later homonym of *Fucus serratifolius* C. Agardh 1815, which served as the basionym of *Sargassum serratifolium*.

資料調査にご協力戴いた信州大学豊国秀夫教授と、原稿に関するご意見を戴いた北海道大学増田道夫博士に厚くお礼申し上げます。

引用文献

Farr E. R., Leussink J. A. and Stafleu F. A. 1976. Index nominum genericorum (Plantarum). vol. 2. Regnum Vegetabile 101. Bohn,

- Scheltema and Holkema, Utrecht.
- Harvey W. H. 1857. Algae. In Perry, Narrative of the Expedition of an American Squadron to the China Sea and Japan...1852, 1853 and 1854. 2 : 331-332. Washington.
- 1859. Characters of new algae, chiefly from Japan and adjacent regions collected by Charles Wright in the North Pacific Exploring Expedition under Capt. John Rodgers. Proc. Amer. Acad. Arts Sci. 4 : 327-334.
- Hatta A. M. and Prud'homme van Reine W. F. 1991. A taxonomic revision of Indonesian Gelidiales (Rhodophyta). Blumea 35 : 347-380.
- 稲垣貫一. 1933. 忍路湾及び其れに近接せる沿岸の海産紅藻類. 北海道帝国大学理学部海藻研究所報告. 2 : 1-77.
- Kaempfer E. 1712. Amoenitatum Exoticarum...H. W. Meyer, Lemgo.
- Kuetzing F. T. 1868. Tabulae Phycologicae. Bd. 18. Nordhausen.
- Levring T. 1941. Die Meeresalgen der Juan Fernandez-Inseln. The Nat. Hist. of Juan Fernandez and Easter Isl. 2 : 601-670. 5 pls.
- Martens G. von. 1866. Die Tange. In, Die preussische Expedition nach Ost-Asien. Decker, Berlin.
- Norris R. E. 1990. A critique on the taxonomy of an important agarophyte, *Gelidium amansii*. Jpn. J. Phycol. 38 : 35-42.
- 岡村金太郎. 1902. 日本藻類名彙. 敬業社, 東京.
- 1913. 日本藻類図譜. 3 : 25-54. pl. 105-115.
- 1934. 本邦産てんぐさ属及おぼくさ属ニ就テ On *Gelidium* and *Pterocladia* of Japan. 水産講習所研究報告. 29 : 35-53, 47-67. 18 pls.
- Santelices B. 1988. Taxonomic studies on Chinese Gelidiales (Rhodophyta). In, Abbott (ed.), Taxonomy of Economic Seaweeds 2 : 91-107.
- Segawa S. 1941. New or noteworthy algae from Izu. Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Univ. 2 : 251-271. 4 pls.
- Segi, T. 1959. On type specimen of *Porphyra tenera* Kjellman and *Gelidium amansii* Lamouroux. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie 3 : 251-256.
- 1963. The type or authentic specimens of *Gelidium* in Europe. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie 4 : 509-525. 52 pls.
- Suringar, W. F. R. 1870. Algae japonicae Musei Botanici Lugduno-Batavi. Herdum Loosjes, Harlem.
- Wynne, M. J. 1982. Observations of four species of Delesseriaceae (Rhodophyta) from the south Islands, the Antarctic. Contr. Mich. Herb. 13 : 325-337.
- Yamada, Y. 1941. Notes on some Japanese algae IX. Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Univ. 2 : 195-215. 9 pls.
- 遠藤吉三郎. 1911. 海産植物学. 博文館, 東京.
- 吉田忠生. 1976. 二, 三海藻の命名上の問題点. 藻類 24 : 143-145.
- 1980. 二, 三海藻の命名法上の問題点 (3). 植研 55 : 310-314.
- Yoshida, T. 1983. Japanese species of *Sargassum* subgenus *Bactrophyucus* (Phaeophyta, Fucales) J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. ser. V (Bot.) 13 : 99-246.
- 吉田忠生・中島 泰・中田由和. 日本産海藻目録 (1990年改訂版). 藻類 38 : 269-320.
- Zinova, A. D. 1972. Species familiae Delesseriaceae (Rhodophyta) in parte septentrionali oceani Pacifici. 2. Nov. syst. plant. non vasc. 9 : 65-82.
- 1976. Species familiae Delesseriaceae (Rhodophyta) in parte septentrionali oceani Pacifici. 3. Nov. Syst. plant. non vasc. 13 : 7-10.